

JOMA 通信

1977.9.15 №12

海外宣教連絡協力会公報
Japan Overseas Missions
Association

発行者 井出定治

編集者 古山洋右

事務局 八尾市高美町4-78 〒581 TEL 0729-91-9218

インドネシア宣教協力会内 海外宣教連絡協力会

信徒と海外宣教

越川 寿 允

私が海外宣教に対して眼が開かれて献身したのは、昭和28年8月、長野県松原湖バイブル・キャンプにおいてであった。その頃、海外宣教の必要を叫ぶ人はほとんどいなかったし、必要性を強調しても耳をかしてくる人は、なかなか見つけることができなかった。

その頃の日本は、敗戦後の混乱、無気力から立ちあがろうとして、自分のことを考えるのが精一杯の時代であった。教会もそうした影響を受けてか、海外宣教に対して無関心な時代であった。しかし、このような時代にあっても、神は見えざるみ手をもって働かれていたのである。

その証しをJOMA加盟団体の宣教師のなかからみれば、昭和38年6月、現在の海外電波宣教を支える会から南米エクアドルに派遣された尾崎一夫宣教師、39年4月、現在の地の果て宣教会から台湾に派遣された鈴木敏子宣教師をあげることができよう。彼らは、出発からさかのぼること7~8年前に—31年頃神から命を受けて、海外宣教に無関心な教会の中で、多くの困難と戦いながら準備し、心ある一握りの祈りの友に支えられて日本を出発して行ったのであった。

この頃、日本から送り出された宣教師の数は、

70~80名を数えたといわれている。

(それから10数年後の現在、宣教師の数は、およそ100人といわれている。)

ほとんどの教会が海外宣教に無関心であった時代に、これだけの宣教師が既に海外に遣わされていたということは、本当に不思議なことである。われらだけではなく神の世界宣教計画推進の為に、たといわれらが海外宣教に関心があろうと、なかりうと—丁度囲碁のように、碁けの中にある数多くの碁石の中から対局者の意のままに、ひとつひとつ選ばれた碁石が、最も必要と思われるところにうたれていくかのように—神はご自身の世界宣教計画を進められていたことに他ならない。

海外宣教の歴史の浅い日本としては、海外宣教団体本部で働く理事又は委員の中に、宣教師経験者が数多く参加できるようになるまでには、まだまだ多くの年月がかかることであろう。

それはさておいて、信徒が本部の理事又は委員に加えられることは、望まれるところである。信徒の場合、比較的事務的な面で活動することが多いと思う。教会の働きでいえば執事のそれであるが、それに加えて宣教師と本部教職者理事、そして教会との間にあって潤滑油的な働き、即ち教会の長老のような働きが加えられることは有益だと思ふ。

宣教団体の働きのひとつは、派遣先の宣教が充分に効果的に活動できるように 送りだした

教会がどのように協力、援助していくべきか、その必要な情報なり目標を伝達することにあると思う。結局そのことが現地の必要に応じていく道だと思ふ。

5年前、沖縄が日本に復帰した頃、中央官庁から沖縄のそれぞれの出先きへ出向していった人たちの中に、まもなく“沖縄病”にかかる人が多いといわれたことがあった。

“沖縄病”とは、沖縄のひとびとの代弁者となって中央にその必要な方策を熱心に説く人たちのこともいったのだが……。

宣教師の場合も、例えば台湾に派遣された宣教師ならば、やはり“台湾病”にかかりやすいと思ふ。むしろ、病気になる方が自然なのかもしれない。

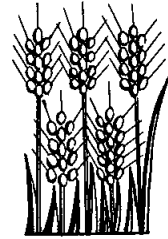
しかし、その台湾病患者（宣教師を患者扱いにして申し訳ないが）の気持を先ず本部が理解し、それを教会に伝達していくことは、いつも簡単なことではない。本部が理解しがたい時、そこに宣教師と宣教師を送り出す側との間に問題が生れる。勿論、この他にもいろいろと問題は起り得ることだが、そうした問題のなかで信徒の働く場は大きい、と私は思ふ。

今後私たちは、更に神の命に従って多くの働き人が 宣教師、技術指導のできる信徒伝道者が海外に送り出されるよう、祈っていかねばならない。しかし、すべての人が海外に出て行くように召されているわけではない。むしろ、多くの場合、働き人を送り出す者として、暖かい愛の配慮と祈り、そして純粋なささげ物によって海外宣教に参加するよう導びかれているのではないかと、思ふ。

そうした意味から……（いささか我田引水で恐縮だが）……宣教師を送り出す側にも宣教師と同じように、海外宣教に召された信徒が、ますますその活動に加えられるよう切望するものである。

私自身のことをいえば、私は自ら海外に宣教師として出ていくように導びかれず、海外宣教に献身以来約20年間、ずっと宣教師を送り出す側で働く者として導びかれてきたのである。これは、ただただあわれみ深い神の恵みによるものであると信じ、深く感謝しているものである。

（筆者は、東生田キリスト教会々員
地の果て宣教会事務局長として奉仕して
おられる。）



（6頁より続く）

②海外宣教団体全体集会の推進に努力する。

③JOMA通信（第12・13号）を年2回発行したい。

④世界宣教地図の発行

⑤宣教師訓練の支援（SIL、京都のMTCなど）

⑥JOMAディレクトリーの発行
以上をほぼ計画案通りに承認する。

①-③は計画案どおり。④は隔年に地図を発行し現行の様式のままとする。⑤は計画案どおり

⑥は役員会に一任する。

二、新年度の予算案 越川兄より別紙により予算案の説明があり、予算案どおり承認する。（なお会費の納入は年度の前半に完納していただけるよう協力して欲しいとの要請があった。

三、役員改選 JOMAの役員は2年位つづけてやったらどうかという提案があり、審議された結果、過半数の賛成で可決された。

現役員にもう一年やっていただくことにする

祈 禱 田 辺 師

なお当夜は、夕食を共にしながら海外宣教懇談会が同一会場で開かれ、多くの兄姉方が残って、有意義な語らいの時を過ごした。

JOMA 加盟団体紹介
東洋ローア・キリスト
伝道教会

海外宣教委員会

当委員会は、独立した宣教団体ではなく、教会の各委員会の一部として置かれている。

当教会の創立者である米国婦人宣教師が第二の宣教地であるフィリピンに渡り、現在も活動しているの、そのろう児施設に教会の一般会計より援助して来た。

日本からも宣教師派遣を要望しているので、神の許しがあれば実現させたい。

委員会会計からは、フィリピンで宣教奉仕者として活躍している二姉妹（日本人）と主にJOMA加盟の超教派宣教団体を支援している。

1977年2月21日には、白井完二宣教師一家を台湾に送り出した。5月15日をもって「中華聾啞基督福音教会」を設立して、台北市を中心に宣教活動をしている。

聖日礼拝には約30～35名集まり決心者も116名程起され、台北市でも集会が始められた。今後は決心者を教会員とすべく指導すること。狭くなった集会所の問題等の対策を必要としている。

派遣に当っては、入国許可が得られるかどうか危ぶまれたが、国内や台湾の先生方の協力を得て実現した。

ろうあ者の場合、技術指導者として送り出すことは困難なようなので、宣教師という肩書のみでのアジア各地への派遣は今後の問題であると思う。

委員会の会合は大体1ヶ月に1回、理事会に先き立って持たれているが、台湾への宣教師派遣に伴い、今後の委員会の立場をはっきりさせると共に、組織や運営の点において、JOMAの働きや、各団体との交わりを通して検討し研究していきたいと思っている。

白井完二、律子宣教師ご一家の現地の住所は、
中華民國台湾省台北市臨江街51-53楼

三 中華聾啞基督福音教会 内

次の祈りの課題を覚えて祈っていただきたい。

一、5月15日より始められた中華聾啞基督福音

教会の働らきを通して台湾における開拓伝道が聖霊によって大いに躍進させられるように。

二、今後設立予定の台中伝道所と各地の活動が祝福されるように。

三、現地語の中国語（手話）を1日も早く覚えて役に立てることが出来るように。

四、白井宣教師と家族の健康が守られるように。

五、台湾ローア者の心が開かれて1人でも多く救われるように。

六、白井宣教師の保証人になっておられる張文徳先生の属される長老派団体の祝福のために。台湾滞在中の日本人宣教師同志の友情を深め神の国建設に協力出来るように。

七、白井宣教師の上に霊的説教と霊的指導と聖書に基いた教会における巧みさが与えられるように。

八、日曜学校の教師として奉仕される夫人の上に豊かな聖書知識と霊的指導力が与えられるように。

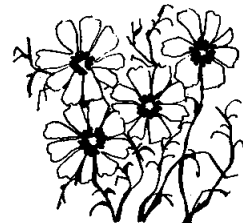
九、長女宣子さんの通信教育とこれからの教育のために。

〒350-04

埼玉県入間郡毛呂山町大字市場1,132番地
の1

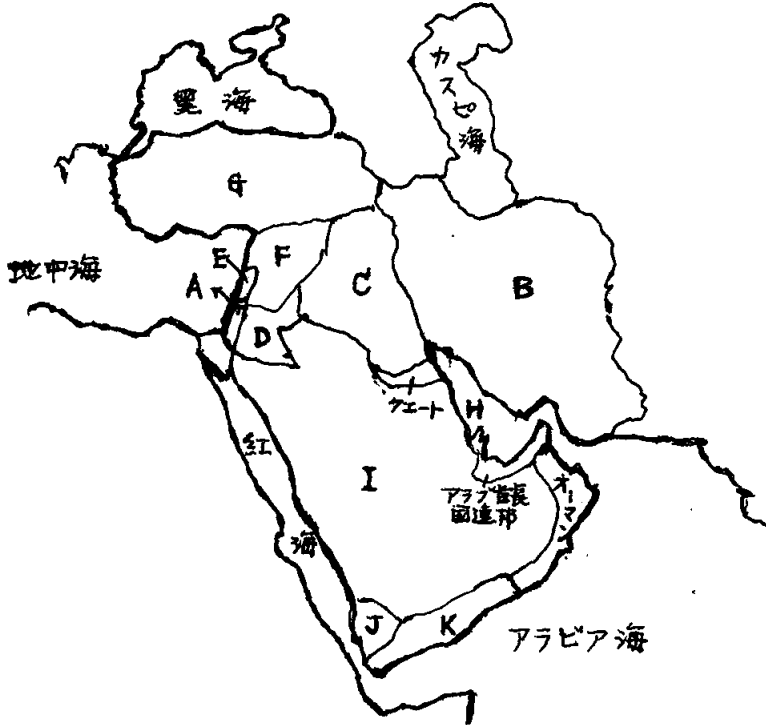
宗教法人 東洋ローア・キリスト伝道教会
海外宣教委員会

TEL 04929(4)6012



フィールド・サーベ－(その3) 中近東
宣教地調査

中近



中・近東

概観 — 石油ショック以来一躍脚光を浴びるようになった中・近東であるが、政治的にも非常に重要な、また戦略的な地位を占めている地域である。

宣教という観点から見た時に、これらの国々は宗教的には回教国であるため、福音に対しては固く門戸を閉ざしているところが多く、最も福音宣教の困難な地域の一つである。

プロテスタント教会による宣教は、前世紀から続いているが、多大の犠牲を払ってなされてきたこれらのわざは、極くわずかの回心者を得たに過ぎない。

これらの地域に、福音をもって浸透していくにはどうしたら良いのだろうか？

具体的には、医療活動、文書伝道、ラジオ放送、聖書通信講座などがある。

特に興味深いのは、福音レコード版の働きで、現地の簡単な言葉でメッセージや音楽を録音して聞かせるというのがある。又個人的に証しする方法や、留学生として入っていく方法なども考えられている。これらのために特定の祈りを。

A イスラエル 面積44,800平方キロ、人口3,400,000 ユダヤ人60%、アラブ人37% 1948年にイスラエル共和国として独立、常にアラブとの対立で緊張関係が続いている。ユダヤ教徒60%、回教徒35%、キリスト教3.1%(しかし殆んどは正教会とカトリック教会に属している)プロテスタントは約5,000人で殆んどアラブ人である。400人位のユダヤ人のクリスチャンがいる。

イスラエルに帰還したユダヤ人は福音に対して心を閉ざしている。法的にもイスラエルで回心者を得ること、又回心者になることは非常にむづかしい。37の宣教団体が国内で活動している。

世界の各地には、12,000,000人のユダヤ人が散在している。これらのユダヤ人、特に若い世代の人たちへの伝道のために祈ろう。

B イラン 面積1,648,000平方キロ、人口30,200,000人 殆んどがペルシヤ系である。宗教はゾロアスター教。キリスト教は景教(ネストリウス派)が一時期強大な勢力を誇っていた。現在は約7万人の教徒を持つ。回教徒は93%で大多数を占める。ユダヤ教徒は約8万人。

プロテスタントは8,500人位と云われる。

イランの回教徒は福音に対してより受容的である。完全な信教の自由がある。今こそ、福音宣教の絶好の機会を提供しているこのイランに、更に多くの働き人が求められている。

現地の教会は非常に弱く、小さい。より充実した聖書教育のプログラムが必要である。

聖書通信講座が効果的な方法であろう。

C イラク 面積434,924平方キロ、人口10,400,000人 アラブ人78%、宗教回教徒97%、東方教会170,000人、カトリック教徒125,000人、プロテスタント4,000人と云われるが殆んどが名目的なキリスト教徒である。現地の教会は非常に弱少である。ラジオ放送だけが今日イラク人に福音をもたらす唯一の手段である。宣教師は若干名それも教育活動にたずさわっている人たちがいるのみである。

D ヨルダン 面積9,7710平方キロ、人口2,500,000人 住民はアラブ人であるが、パレスチナ在住の豊耕を生業とするグループと、放牧生活をしているベドウィンのアラブ人グループとがある。回教徒91%、東方およびカトリック教徒8%、プロテスタント0.5%

プロテスタントの大半は名目的な形式化した信徒であり、真正なリバイバルを必要としている。

宣教師としてビザを得ることは非常に困難ではあるが、もっと多くの働き人を必要としていることは確かである。現地人のクリスチャンのために祈ろう。

E レバノン 面積10,400平方キロ、人口3,000,000人 大多数はアラブ人、常に、アラブ・イスラエル間の緊張関係の中で不穏な空気が流れている。パレスチナ人ゲリラの活動が目をはびく。首都ベイルート

カトリック教徒30% 東方教会20%、回教徒4.2%、プロテスタント26,000人

宣教師は約200人いる。宣教という観点から見て、レバノンは大変戦略的な位置を占めている。つい最近の内戦が起るまでは、多くの宣教団体の本部が置かれていたのも、そうした理由による。レバノン聖書学院は、世界で唯一のアラビア語によって教えられている神学校である。

F シリア 面積185,180平方キロ、人口6,600,000 殆んどがアラブ人である。宗教は、回教徒91%、正教会5%、カトリック2.5%、プロテスタント0.2%、回教徒が改宗することは法律で禁じられている。宣教師も一人も残っていない。現地の教会の信徒は政府の制約や弾圧にも拘らず、高いモラルを保持している。プロテスタントの教会員は約5,000人と云われている。

G トルコ 面積752,000平方キロ、人口37,600,000人、回教徒99%、正教会、カ

トリック教徒250,000(殆んど大部分は少数派の非トルコ人である) プロテスタント18,000人、トルコ人の信者は50~100人位、使徒パウロが1900年前に伝道したこの地は、今日、最も広大な未伝地なのである。回教徒である古い世代と、共産化しつつある若い世代との中間に、福音に対して受容的な層があることは、将来に対する明るい見通しを与えている。文書による福音の伝達に大きな期待が持てる。

H ベルシャ湾諸国 面積315,000平方キロ 人口2,200,000人、次の様な諸国が含まれている。クェート、バハレーン、オーマン、アラブ首長国連邦。

現住民のアラブ人の他に、インド、パキスタン、イランなどから多くの移民が移住してきている。大部分が回教圏であるが、一応信教の自由はある。プロテスタントは全体で約5,000人と云われている。クェートやバハレーンなどには4~500人位の現地人信徒がいる。

I サウディ・アラビア 面積2,149,690平方キロ、人口8,200,000、回教徒100%クリスチャンは皆無である。イエーメンやベルシャ湾諸国にあるクリスチャン病院に最近サウディ・アラビアから治療を受けに来ている人々があると云われている。またラジオ放送による伝道にも可能性があることを覚えよう。

J イエーメン・アラブ共和国 (北イエーメン) 面積195,000平方キロ、人口6,100,000 回教徒100%、わずかに一にぎりのイエーメンの信徒がいるだけである。バプテストやその他の団体による医療機関の設置が許されたことにより福音への門戸は、ほんの少しではあるが開かれた。この方法によつて、多くのイエーメン人や、サウディ・アラビア人が救われるように祈ろう。矢張り文書と福音レコード版による働きが効果的である。

K イエーメン民主人民

共和国 (南イエーメン)

面積287,000平方キロ、人口1,400,000 回教国であるが、無神論的になりつつあり、軍隊の回教寺院(モスク)は閉鎖されていると云う。クリスチャンは約40人、

1972年、政府はすべての宣教団体の施設を没収してしまった。伝道することは非常に困難である。続いてラジオ放送による伝道のために祈ろう。



J O M A 1 9 7 7 年 度 総 会 議 事 録

日 時 1977年4月4日(月)午後2-5時
会 場 お茶の水学生キリスト教会館

出席団体 南米宣教会(井出師)、海外電波宣教を支える会(舟喜(拓)師)、宣教師金岡栄子を支援する会(荒品師)、インドネシア宣教協力会(古山師)、福音自由海外宣教委員会(三崎姉)、ウィクリック聖書翻訳協会日本委員会(舟喜(信)師)、海外宣教交友会(田辺師)、地の果て宣教会(越川兄)

欠席団体 聖書同盟、アジア福音宣教会、東洋ローア、キリスト伝道教会

陪席者 同盟基督教団(荒川師)、アツセンブリー教団(内村師他2名)、国吉師、佐藤師、吉村兄、鳥羽師、鷹羽師、太田和師、藤村兄、平賀姉、小川師

議長・書記選出 議長 荒品師 書記 佐藤師

証し インドネシア奉仕の小川国光師(OMF)の証しがあった。

各団体の報告

①福音自由教会海宣部(三崎)代理なので詳しいことはわからない。

②南米宣教(井出)中田師は現地(ブラジル)の教会で青年伝道に協力、アルモニア学生寮(二世、三世)にて日本語を教えつゝ伝道中

佐藤師は巡回中、9月頃ブラジルに派遣予定、移住者用のビザ申請中

③地の果て(越川)鈴木師は山地と台中で伝道、同盟の護得久師、東洋ローアの白井師のお世話をしている。

堀切師(ボリビアのサンタクルス)の日本人移住者の伝道、二期になったが、目に見える成果は特になし。

④ウィクリップ(舟喜)鳥羽師が昨年ネパールより出された。他の宣教師の多くはフィリピンに移った。鳥羽師はホーム・ディレクターになる。小栗師は4月始め帰国した。吉村兄は短期協力として図書館司書をバプア・ニューギニアで務めた。真鍋師は今年6月に準備を終り帰国後来年1月にバプア・ニューギニアに入る。虎川姉は今夏米国

に行く。福田師はマニラでタガログ語の学習に入る。他の希望者も多く出ている。SIL(夏季言語学講座)を今夏もTCCで開く。

⑤OMF(海外宣教交友会)(田辺)小川師は帰国巡回開始、牧野師はタイ語の学びに時間をかけている。試験がきびしい。バンコックで学生伝道に奉仕、ビザが取れず忍耐している。

⑥海外電波宣教(舟喜)尾崎師は日本語部の責任者。5月にエクアドルをはなれて7月頃帰国の予定。田口師 コスタリカでスペイン語の学びを終えてエクアドルに赴任した。

宮下姉(国立教会)を派遣の予定。熊井師 現地ブラジルでフォローアップ、中川師はマニラでFEBCCの日本語部、国吉師は現在ビザの交付を待っている。

⑦インドネシア宣教(古山)

安海師はISKを辞任した。理念上の違いというより、その態度、姿勢に問題があった。新年度の事業計画は別紙(宣教ニュース誌上)に発表した。現地の教会に協力する 現地人の働き人の育成につとめる。複数の団体と協力する方針。機構が変り古山師は事務担当理事になり事務局は八尾市に移転した。

その他陪席の諸団体より夫々報告があった。

JOMA活動報告 古山総主事より別紙にて報告された。

JOMA会計報告 越川兄より各人に報告書が配られ説明があった。以上の報告を総会は承認した。

議 事

一、新年度事業の計画案

古山師より計画案の説明があった。

①世界宣教地域懇談会の開催、夫々の地域の教会の代表者を招き、宣教団体や宣教師が共に語り合える場を持ちたい。取りあえず三ヶ所で開催したい。

(2頁へ続く)

海外ニュース

☆ 宣教師の実勢力はどうなっているか？

全世界のプロテスタント宣教師の実数は、1975年の調査で55,000人と云われる。(この数字の中には短期宣教師も含まれる)このうち、35,000人が北米から、8,000人が英国、5,500人がヨーロッパ、3,500人が第三世界からとなっている。

全世界のローマ・カトリック宣教師は、同じく1975年の調査で、49,000人、北米からは11,903人となっている。

注目に値する事実は、モルモン教(末日聖徒イエス・キリスト教会—これは明らかな異端である/)の宣教師は、その数を増し加え、20,000人とも云われ、近い将来、北米からの福音的な宣教師数を超えるのではないかと予想されていることである。(ミッション・ハンドブックより)

☆ ウガンダのその後

ウガンダの前聖公会大主教ジャナリ・ルウム師(同師はローザンス世界宣教会議にも参加された

福音派の指導者)が、同国の閣僚2名(クリスチャン)と共に、イディ・アミン大統領によって殺害されたのが、今年の2月16日であったことは、なお記憶に新しいと思う。アミン大統領自身回教徒であり(ウガンダの回教徒は人口の5%しかない)リビヤなどからのアラブ人指導者の提案により、ウガンダを回教国にしようとする意図を持っているようである。

このため、教会に対する圧力は益々強まっているが、それにも拘らず、同国のクリスチャンはかたく信仰に立って、崩壊の危機を乗り越えてきている。私たちも、心を合わせてウガンダの教会のために祈り続けよう。神は必ず公正と正義をもって審き給うことを信じて。

☆ エジプトでピリー・グラハム・クルセード開催！

エジプト政府は、来年アメリカの伝道者ピリー・グラハム博士が首都カイロでクルセードを開くのを許可したそりである。エジプトは熱心な回教国であり、伝道の最も困難な国の一つとされていた。主が聖書にも出てくる、このエジプトの地を顧み、御霊を注いで下さるよう祈ろう。

(世界に広がる教会誌より)

JOMAディレクトリー '77

海外宣教連絡協力会発行

あなたの教会ではもう紹介されていますか？

日本にある海外宣教団体(教派超教派)の殆んどすべてを網羅してある名簿です。

世界(アフリカ・南米・アジア)の宣教地の実情調査(フィールド・サーベアー)収録、宣教良書紹介コーナーなど便利な資料が盛り込んであります。

今すぐお申し込み下さい。教会単位で5部以上申し込んで下さると幸いです。ディレクトリーは無料でおわからしますが、郵税実費は申し受けます。参考までに国内で1部の郵税は100円、10部は300円程度です。

JOMA世界宣教地図

1976~77年版

まだ残部が多少あります!!

あなたの教会に、日曜学校に、ご家庭に是非はり出して、毎日、宣教師や海外の教会のために祈ることが出来ます。

大小二種類のサイズがあります。

大は教会や日曜学校用で 一枚150円

小は家庭・個室用で 一枚100円

でおわからします。

10部以上まとめてご注文の場合は送料を当方で負担します。10部以下の場合は郵税実費申し受けます。

JOMAディレクトリーもJOMA世界宣教地図も共に申し込みは下記宛お願いします。

〒581 八尾市高美町4-78

インドネシア宣教協力会 内

海外宣教連絡協力会事務局

TEL 0729-91-9218

振替 京都2412

広島地区

海外宣教地域懇談会と 宣教の夕べご案内

地域の教職・信徒の方々お招きして、日本の福音的な教会によって担われる海外宣教のこれからについて共に語り合い画期的な懇談会です。是非ご参加下さり、ご助言下さるよう心よりおすゝめ申し上げます。

◎日時 9月26日(月)后2:00-5:00
◎会場 広島クリスチャン文藝センター会議室
(CLC)

広島市袋町4-10

電 0822-48-4254

午後の懇談会は教職・信徒役員を対象にしていますが、どなたでも参加出来ます。

宣教の夕べ

(一般公開)9月26日(月)

后7:00-8:30

同会場

特別講師 海外宣教交友会(OMF)
インドネシア派遣宣教師
小川国光 師

是非、信徒の皆様は誘い合ってご参集下さい。
すばらしいメッセージと証し、スライドなどがあります。

京阪神地区

海外宣教地域懇談会と 宣教の夕べご案内

左記の集会と同じ目的と趣旨をもって開催されます。

◎日時 10月24日(月)后2:00-5:00
◎会場 大阪クリスチャン・センター
大阪市東区仁右衛門町515

TEL 06-762-7701

午後の懇談会は教職・信徒役員を対象にしていますが、どなたでも参加出来ます。

宣教の夕べ

(一般公開)10月24日(月)

后7:00-8:30

同会場

- ・スライドによる報告 和歌山福音教会牧師
蒲田三郎 師
- ・メッセージ 海外宣教交友会宣教師
小川国光 師

是非信徒の皆様は誘い合ってご参集下さい。
すばらしいメッセージとスライドがあります!

主催 海外宣教協力会(JOMA)

海外宣教団体全体集会 開催

とき 1977年11月22-23日
ところ 熱海地塩園(熱海駅前第一ビル)
TEL 0557-82-4312

主題 「世界宣教と日本の教会」

講師 竿代忠一 師
インマヌエル綜合伝道団
海外宣教局長

費用は一泊三食 3,900円

全体講演会の他、報告会、分科会、宣教地を知るために等の集会があります。

参加希望者は、どれかの海外宣教団体を通じてお申し込み下さい。定員40名

主催 海外宣教全体集会
準備委員会

お問い合わせは JOMA事務局へ